

平成27年（2015）5月 入域観光客数概況

5月の観光客数は、61万1,400人
対前年（H26）同月比 +5万0,000人、+8.9%
～5月の過去最高を記録、外国客は単月の過去最高を更新～

入域状況

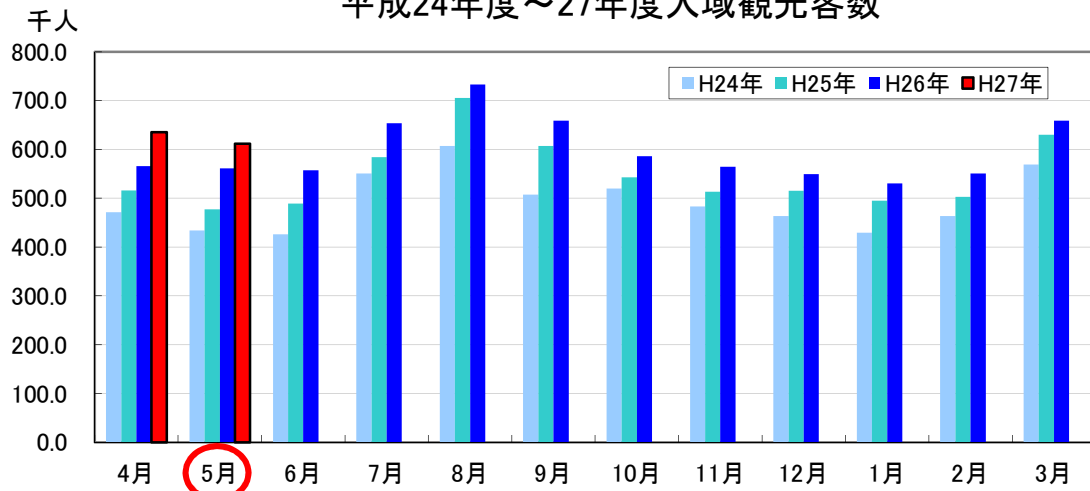
入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	477,700 人	469,700 人	+ 8,000人	+ 1.7%	78.1%
外国客	133,700 人	91,700 人	+ 42,000人	+ 45.8%	21.9%
合計	611,400 人	561,400 人	+ 50,000人	+ 8.9%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	477,700 人	469,700 人	+ 8,000人	+ 1.7%	80.4%
外国客	116,600 人	76,400 人	+ 40,200人	+ 52.6%	19.6%
合計	594,300 人	546,100 人	+ 48,200人	+ 8.8%	100.0%

平成24年度～27年度入域観光客数



国内客 入域状況

5月は、台風6号の影響で欠航があったものの、主要方面において、ゴールデンウィーク期間を中心に好調に推移し、LCCを中心とした航空路線の拡充等により、前年度を上回った。

6月は、例年ボトム期に当たることもあり、旅行商品等の予約状況はやや鈍くなっているが、関西－宮古間、福岡－石垣間等の再開による離島方面の増加や、例年より早い梅雨明けによる駆け込み需要も期待できることから、堅調に推移する見込み。

外国客 入域状況

5月は、引き続き、航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港回数の増により、空路・海路ともに好調に推移し、2ヶ月連続で単月の過去最高記録を更新した。特に中国と韓国の伸びが顕著であった。

6月も、前年同月に比べて航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港回数が増加する見込みとなっていることから空路・海路客ともに増加が期待されており、順調に増加する見込み。

ロシアからのチャーターツアーが予定されており、主要方面以外からの入込も期待される。

国内客 地域別入域状況

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	211,700 人	204,000 人	+ 7,700人	+ 3.8%	44.3%
関西方面	115,900 人	114,300 人	+ 1,600人	+ 1.4%	24.3%
福岡方面	57,100 人	55,400 人	+ 1,700人	+ 3.1%	12.0%
名古屋	37,800 人	35,300 人	+ 2,500人	+ 7.1%	7.9%
その他	55,200 人	60,700 人	△ 5,500人	△ 9.1%	11.6%
合計	477,700 人	469,700 人	+ 8,000人	+ 1.7%	100.0%

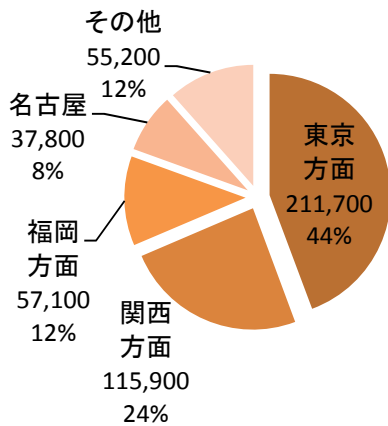
※国内海路客7,300人を含む(鹿児島3,100人、東京500人、その他3,700人)

外国客 国籍別入域状況

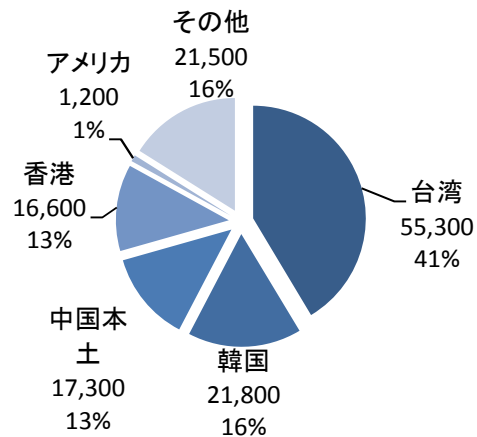
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H27年度	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	55,300 人	55,300 人	41,800 人	+ 13,500人	+32.3%	41.4%
韓国	21,800 人	21,800 人	10,200 人	+ 11,600人	+113.7%	16.3%
中国本土	17,300 人	17,300 人	7,900 人	+ 9,400人	+119.0%	12.9%
香港	16,600 人	16,600 人	12,200 人	+ 4,400人	+36.1%	12.4%
アメリカ	1,200 人	1,200 人	800 人	+ 400人	+50.0%	0.9%
その他	21,500 人	4,400 人	18,800 人	+ 2,700人	+14.4%	16.1%
合計	133,700 人	116,600 人	91,700 人	+ 42,000人	+45.8%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	30,900 人	30,900 人	+30.4%	34.5%	24,400 人	24,400 人	+34.8%	55.3%
韓国	20,000 人	20,000 人	+119.8%	22.3%	1,800 人	1,800 人	+63.6%	4.1%
中国本土	17,300 人	17,300 人	+268.1%	19.3%	0 人	0 人	—	0.0%
香港	16,600 人	16,600 人	+37.2%	18.5%	0 人	0 人	—	0.0%
アメリカ	900 人	900 人	+28.6%	1.0%	300 人	300 人	+200.0%	0.7%
その他	3,900 人	3,800 人	+21.9%	4.4%	17,600 人	600 人	+12.8%	39.9%
合計	89,600 人	89,500 人	+67.5%	100.0%	44,100 人	27,100 人	+15.4%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

5月は、台風6号の影響で欠航があったものの、ゴールデンウィーク期間を中心に好調に推移し、前年度を上回った。

6月以降は、「ふるさと旅行券」制度を活用した各方面との競合による影響等が懸念されるが、引き続き、羽田を中心とした航空路線の拡充等により、堅調に推移する見込み。

大阪

5月は、前月に引き続き、ジェットスター・ジャパンの関西－那覇路線の増便やピーチ・アビエーションの関西－那覇路線の入込が増加したこと、ゴールデンウィーク期間を中心に好調に推移したことから、前年度を上回った。

6月は、ANAの関西－宮古路線の再開による離島方面の増加が期待されることから、好調に推移する見込み。

福岡

5月は、台風6号の影響で欠航があったものの、ゴールデンウィーク期間を中心に好調に推移し、前年同月に比べて航空路線が拡充したことにより、前年度を上回った。

6月以降は、旅行商品の販売で一部、前年に比べて苦戦している状況が見られるものの、ANAの福岡－那覇路線の増便や、福岡－石垣路線の運航再開による離島方面の増加が期待されることから、堅調に推移する見込み。

名古屋

5月は、前月に引き続き、ジェットスター・ジャパンの名古屋－那覇路線新規就航の影響や、ゴールデンウィーク期間を中心に好調に推移したことから、前年度を上回った。

6月以降は、引き続き、LCCの予約状況が好調であること、7月からANAの名古屋－那覇路線の増便が予定されていること等から、好調に推移する見込み。

台湾

5月は、各航空会社の路線拡充や、クルーズ船の寄港回数が増加したこと等から、空路・海路客ともに増加し、前年度を上回った。

6月以降も、クルーズ船の前年度を上回る寄港回数の見通しや、タイガーエア台湾の台北－那覇路線の新規就航等、航空路線の拡充も予定されており、夏場に向けて空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

韓国

5月は、引き続き、前年同月に比べて航空路線が大幅に拡充したことや、済州島-那覇間のチャーター便や韓国発チャータークルーズが好調だったことにより、前年度に比べて倍増した。

6月以降は、中東呼吸器症候群(MERS)の影響による旅行自粛ムードも懸念されるが、夏場に向けて予約状況が好調となっていることから、順調に増加する見込み。

中国本土・北京

5月は、労働節の連休による旅行需要の高まりに加え、前年同月に比べて天津－那覇路線や定期チャーター(西安－那覇)等による航空路線の拡充から空路客が増加し、前年度を上回った。

6月以降は、6月の端午節の連休による旅行需要の高まりや、7月から航空路線の拡充による空路客の増加が見込まれることから、順調に増加する見込み。

中国本土・上海

5月は、前年同月に比べて上海－那覇路線の増便や定期チャーター(杭州－那覇)等による航空路線が拡充したことから空路客が増加し、前年度を上回った。

6月以降は、6月後半から上海吉祥航空の上海－那覇路線の増便や、7月から中国東方航空の福州-那覇路線の新規就航等により、航空路線が拡充することから、空路客を中心に順調に増加する見込み。

香港

5月は、引き続き、前年同月に比べて香港ドラゴン航空の香港－那覇路線の増便等による航空路線の拡充から空路客が増加し、前年度を上回った。

6月以降は、ピーチ・アビエーションの香港－那覇路線の増便や、香港発のクルーズ船の寄港が予定されていることから、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。